

腹腔鏡内視鏡 合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第11回 2015年3月6日

■演題1 当院におけるLECSのラーニングカーブ - 手術時間から

代表演者：加納幹浩 先生（広島市立安佐市民病院 外科）

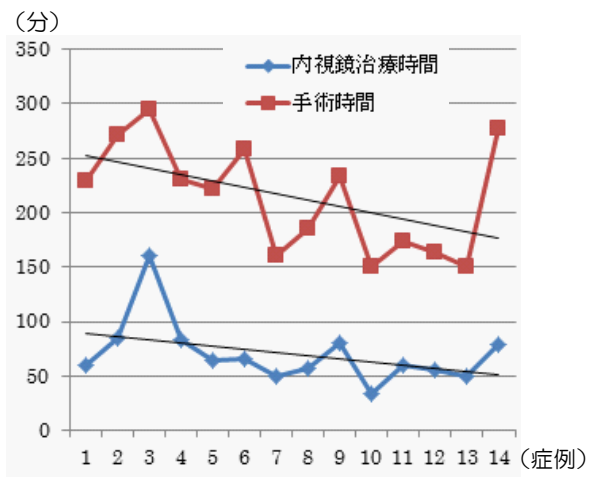
共同演者：[広島市立安佐市民病院 外科] 平林直樹

[広島市立安佐市民病院 内科] 上田裕之、永田信二

当院におけるLECSについては2014年までに14例を経験した。

内視鏡医2人，外科医2人が主に執刀を担当した。

内視鏡時間は85分から50分程度に、全手術時間は250分から180分程度に、ともに症例経験の累積と共に、全体として時間の短縮が図られている。内視鏡時間が短縮できた理由として、消化器内科医が手術室という慣れない環境の中、仰臥位で行うという特殊な手技に対する慣れとともに、外科医による補助操作を工夫したこと（切開時に外科医が胃を鉗子にて操作する、穿孔後は外科医が漿膜筋層を主に切離する、内視鏡の送気が不十分で視野が悪くなった場合は腹腔鏡による支持系を利用する）が影響したと考えられた。



内視鏡時間・全手術時間ともに延長した症例は、噴門、幽門近傍の症例であった。噴門部、幽門部では内視鏡操作の視野確保が難しく、腹腔鏡下操作による縫合閉鎖の際に自動吻合器では切除範囲が大きくなり食道に掛かったりする可能性がある。このため手縫いの方が良い可能性があるが、今後検討の余地があると思われた。